

【中学3年】 行きたい高校を選択できない 中学3年生の高校受験

昨今、高校に行かない人生を歩むという決心をする子供は少数でしょう。受験せざるを得ない状況にあるということ、子供たち本人はどう受け止めているのでしょうか。

この時期の子供は「まるで自分事とっていないかのような振り」をしていても、普段の学校生活での態度が受験評価になることぐらいは、当然知っています。知っているけれど、その受験システムに乗り切れない怒りを感じているか、無力感を感じているのかもしれませんが。

受験に必要な力(主に学力)のことは見えていない親と、受験に一生けん命になれない子供との間には深い溝ができてしまうことがあります。

受験するのは誰でしょう？

高校に通うのは誰でしょう？

「親の言う通りに勉強しないあなたが悪い」という一方的な話でその時期を過ごしてしまい、その後も親子関係がぐずづついているケースをたくさん見えています。

勉強が手に付かなかったり、迷いすぎて学校選択が難しくなっているのなら、親が現実的に本人が通える範囲を見つけて、リードしていくのもありでしょう。でも、どんな場合でも、親が望まない高校にしか入れなくても、本人を批判したり、「しょうがないわね」などと子供を見下さないでください。

「選択することが難しいのであって、高校に行きたくないと言っただけなのだな」と考えて、対応してみようでしょうか？通うのは本人なのです。

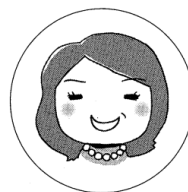
「行きたい高校を選べないのなら、中卒で働きなさい」と親が子供に詰め寄るケースはよくあるのですが、行きたい高校を選択することが難しいタイプには、働く選択をすることも難しいのです。今の15歳は、まだ親の後押しなしでは、成熟しきれないと思ってよいと思います。

執筆：認定特定非営利活動法人育て上げネット 「結」相談員 森 裕子・墓田 薫

「ニート・ひきこもりの子をもつ親の会『結』」
(運営：認定特定非営利活動法人育て上げネット)

若者の「働く」と「働き続ける」を実現するために、若年無業者就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」など、多方面からの支援を行っている「認定特定非営利活動法人育て上げネット」の活動の一つで、親をサポートするための会。1か月ごとの定期相談やすぐに実施できる「接し方・伝え方」ワークショップ、親同士の気軽な茶話会などを提供している。

※執筆者の肩書等は、令和2年(2020年)3月現在のものです。



墓田さん



森さん